



かがやき

Vol.90
2026
1月

令和7年度 第9回共同機構研修会

わらべうたを用いた障がい児保育の実践

講師 和田 幸子さん 京都光華女子大学教授

今回の研修では、前半にたくさんのわらべうた遊びを体験した後、わらべうたの音楽的特徴やその音楽構造が障がい児保育にどのように作用するのかについて、和田先生の実践も踏まえてお話をいただきました。



いろいろなわらべうたを体験しました

| | | | | |
|--|---|---|--|---|
| <p>お人形にしてあげて！</p> <p>でべそ はなちゃん でんぐれべそ りんごを へそにけた たべたのね でこちゃん</p>  | <p>あがいめ さかめ くさと まわって ぬこのめ</p> <p>あがいめ さかめ くさと まわって きつねのめ</p> <p>あがいめ さかめ くさと まわって たひものめ</p>  | <p>お：おしゃれ な：なまけもの べ：べんきょうか ふ：ふまじめ</p> | <p>トーシャター</p> <p>占いわらべうた</p> | <p>うらがえし だいこんつけ だいこんつけ おもてかえし</p> <p>おらうちの とてかぼちゃ ひにやけて くわれない</p>  |
| <p>うめんでんしゃに みんなをのせて いまにおるよ いまにおるよ すとどーん どん</p>  | <p>おすわりやす いはとせ あんまりのったら こけまっせ</p> | <p>1対で楽しむわらべうた みんなで楽しむわらべうた</p> | <p>ちいちゃん ばあちゃん おにぎりちょうどい かみに つぶんで おにぎりちょうどい</p>  | <p>手裏(お手玉・オーガンジー等) を使ったわらべうた</p> |

わらべうたは、日本音楽の音階で遊びながら無理なく歌える音域で歌われ、方言、イントネーションが旋律の形に表れる、遊びのリズムに添う（遊びの動きより歌が先行しない）という特徴を持っています。民族音楽学者の小泉文夫さんが、1960年代にわらべうたの音階構造を発見され、音楽的特徴を分析されています。

私も、自分が子どもの頃の経験や、障がいのある子どもとの関わりの難しさを感じる中で、子どもと直接関わりながら一緒に楽しめるわらべうたに魅力を感じ、保育に取り入れてきました。

R君の事例

3歳5ヵ月で出会ったR君は、極小未熟児で生まれ、まだ歩けず、身体的障がい・知的障がいのある子どもでした。言葉も発しておらず、集団生活もこの時が初めてです。その園では、週1回1時間の設定音楽あそびを保育の中に取り入れていました。R君は、みんなの輪の中に入れず、周りに対して「近寄るな！」という思いをアピールしているように感じました。経験不足でもあるR君に、遊びの面白さを知ってほしい、人と関わる経験をしてほしいと願い、わらべうた遊びを続けました。すると、『だるまさんがころんだ』と唱え遊ぶ中で、R君がタンバリンを叩き、遊びをリードするような姿が見られ、『うえからしたからおおかぜこい』と20枚の貼り合わせた新聞紙を上下するわらべうた遊びで、R君が立ち上がるという姿も見られました。わらべうた遊びをする場に居ることを重ねた結果として、皆の遊びの輪に入れたこと、保育者と共に感できたこと、手足の動きが促されたことというR君の育ちを見る事ができました。

わらべうたの輪の中に入ってくる子どもたちとわらべうた遊びを蕭々と続けることで、入れない子どもが、数カ月後に自分から入ってくるようになるという経験を何度もしました。参加していくなくても、その場に居て見ていたということです。私たち保育者が信じられるか、ということだと思います。私は、願いを持ち続ければ、子どもは裏切らない、と体験を通して感じています。わらべうたをやり続けることで、子どもや保護者に一筋の光が見えればと思っています。

その他、ハンガリーでの保育の御紹介等からも学びました



アンケートより

- ・集団の中に入りにくい子どもも、願いをもって関わり、信じることの大切さを学びました。
 - ・たくさんのわらべうたを知ることができ、とても楽しい時間でした。
 - ・わらべうたを歌うだけでなく、ねらいや歴史、実践等の話も聞けて、大変勉強になりました。
 - ・期待にあふれた子どもの顔が目に浮かぶようでした。すぐに子どもたちとやってみたいですね。

DVD貸出中

フィールド研修（療育現場から学ぶ研修）

以前から、「療育のことが知りたい」「療育施設を見学したい」という要望をたくさんいただいており、今年度は、療育の現場へフィールドを移しての実施となりました。うさぎ園・きらきら園・洛西愛育園の3園に御協力いただき、園の見学や、それぞれの施設での療育の内容や大切にされていることなどのお話をうかがいました。御協力いただいた3園には、貴重な学びの時間をいただけたこと、お礼を申し上げます。



児童発達支援センター
うさぎ園
9月3日実施

うさぎ園について

0歳～就学前の言葉や聞こえ、発達のかたよりなど、コミュニケーションについて支援が必要な子どもを対象にして、支援を行っています。保護者と一緒に通園します。

アンケートより

こんな思いで参加しました（申込用紙より）

- ・発達支援センターで0歳児から受け入れておられる施設を初めて知り、どのような支援をされているのか知りたいと思いました。
- ・一人一人にどのような関わりをしておられるのか、また、保護者支援について知りたいです。
- ・環境設定や遊びの工夫など、出来ることがあれば、園でも取り入れて実践に活かしたいと思い、参加を希望しました。



訪問支援を知り、言葉の面で気になる子がいるので、連携が取れたら良いなあとと思いました。

療育施設を初めて見学しましたが、子どもに合わせた工夫が様々あり、勉強になりました。

就学前の保護者支援について、「保護者の方にどれだけ我が子を知ってもらっているかが大事」というお話が、とても心に残りました。

難聴学級では、子どもも保護者も楽しそうな姿が印象的でした。キューサインや手話、身振りなどで子どもの“伝えたい”という思いを大事にされていることを知りました。

京都市児童療育センター
きらきら園
10月24日実施

きらきら園について

こころやからだの発達、ことばの発達に弱さや遅れがみられる就学前の子どもを対象に、通園による早期療育・発達支援を行っています。



アンケートより

こんな思いで参加しました（申込用紙より）

- ・正直なところ療育について知識が少ないとおられるのかを知りたいと思います。
- ・支援の必要な子どもへの関わり方や指導計画などの話を聞けたらと思いました。
- ・きらきら園では、困り感を抱えている子どもやその家庭に対してどのような働きかけをされているか、詳しく学びたいと考えています。また、環境構成や遊びの中での工夫についてお伺いしたいです。

今回実際に施設を見せていただいたことで、不透明だった部分がよく分かりました。このような機会を設けていただき、とても有意義な時間でした。

研修を受講して、私自身の療育への認識が変わったように思います。ありがとうございました。

療育現場での子どもへの関わりは、保育現場の原点であると痛感しました。今後も、このような研修をしていただけると嬉しいです

保護者にとって「できれば行きたくなかったところ」であるという認識を持たれているということ、障害受容は人それぞれいいということがとても印象に残りました。

洛西愛育園について

障がいのある未就学の子どもが他の子どもたちと一緒に学び、集団参加能力を獲得し、生活する力を身につけるための通所支援施設です。

こんな思いで参加しました（申込用紙より）

- ・一人ひとりの子どもたちに、必要な支援が行えるよう、勉強させていただきたいと思います。
- ・「療育」の支援や考え方、その意味とねらいなどを教えていただき、そこで育つ子どもの力を、園などの集団で活かせるような連携へつなげたいと思っています。
- ・集団生活が難しい子どもに対して、どのような環境で過ごすことが、その子にとっての成長につながるのか悩んでおり、洛西愛育園の環境や関わりなどを見て、学ばせていただきたいです。



アンケートより



視覚支援、子どもの強みをどう活かしていくか、大人が子どもの見方を変えること等、たくさんのこと学びました。

一人一人の子どものペースに合わせて、わかりやすい環境にすることで、大人も注意することが減り子どもが過ごしやすくなるのだと改めて感じました。

「職員は、極力、否定的な言葉で伝えない」というお話を聞き、言葉の言いかえで相手の受け止め方も大きく変わると実感しました。

実際に施設に行き、お話を聞いた後、見学をしたので、お話の内容がより理解しやすかったです。学びの多い研修でした。



療育施設をフィールドとした研修は、大変関心が高く、定員以上の申し込みをいただきました。来年度も、引き続き実施できるよう検討中です。詳細は、令和8年度にお伝えします。

京都市総合教育センター主催 幼保小接続講座 12月1日実施

リモート研修

テーマ：幼保小で一緒にできることを、みんなで楽しく考えよう！
～架け橋期の取組って、いろいろできることがあるんだね～

研修会内容：実践発表 京都市立翔鸞小学校：「翔鸞小学校ブロックにおける幼保小の架け橋プログラム

～1年生における実践例と学校全体への広がりについて～」

グループ協議・全体交流：「これから、架け橋期の取組をどうしていけばよいのだろう

～あなたは、今後の幼保小接続でどんなことがしたいですか～」

就学前施設の先生方は52名、小学校の先生方は43名の参加でした。どのグループでも小学校の先生と就学前施設の先生が自校園の状況や課題を伝え合い、今後の取組のヒントを得るなど、充実した協議となりました。



就学前施設の先生方のアンケートより



他園の取り組みや課題に触れることができ、勉強になったのと自園の課題も再確認することができ良かったです。小学校側の課題もお聞きすることができ、今自分たちに何ができるかな？と改めて考えることができました。園全体で話し合い、繋げていきたいと思いました。

架け橋プログラムのイメージが大きくかわりました。どちらかというと敬遠していたほうでしたが、今日のお話を聞き子どもたちにとってとても大切な連携だと感じました。

他の小学校や、幼稚園の先生方とお話が出来て、様々な取り組みをされているのを聞いて、わが園も取り組みたいと思いました。子どもだけでなく、大人同士の交流も持ちたいです。

小学校からのお誘いを待つのではなく自分たちから働きかけて動いていかないといけないと思いました。卒園児の中に小学校に進んで不登校になっている子どもたちがいて、在園中から小学校との交流が出来ていたら、不安感を取り除いたり見通しが持てたり何かちがっていたかもしれないと思いました。大掛かりなプログラムを計画するのは負担になってしまふ可能性もあるので、一緒に散歩に行く、園庭であそぶ、校庭で一緒にあそぶなど、ハードルを下げて継続できる内容で進めていくことも大事だとお話を聞いていて思いました。

アンケート

御協力ありがとうございました

令和5年度より、保幼小連携・接続に関するアンケートを実施し、今年度は、今までで最も多い151件の回答が寄せられました。それぞれの園の実態やお考え等、皆様から頂いた御意見を生かしながら研究・研修事業を進めていきたいと思います。アンケートの中には、たくさんの取組の事例がありましたので、参考になれば…と思い、一部を御紹介します。

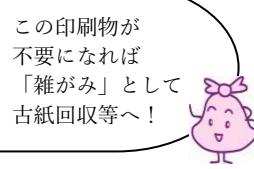
- ・昨年度の反省をいかせるよう、年度当初から今年度の取り組みについて話し合う時間をもち、ともに計画を考えたり共通理解したりすることができ、互いに意識が向上しました。
- ・今回、地域で研修を受けたことで、小中学、保幼の職員が自己肯定感や、非認知能力を高めるには…といった学びを得て、共通理解することができました。
- ・取組の定着により、教員同士の距離感が縮まりました。また、子どもが就学に期待をもち、不安感が少ないように思います。
- ・架け橋プログラムの全市実施により、保育園から小学校へ「つながりたい」と連絡があり、小学校区内のこども園と幼稚園も一緒につながることとなり、架け橋の取組を行うことになりました。
- ・昨年度に近隣の小学校との架け橋プログラムを行ったことで、子どもも職員も小学校生活に見通しを持つことができるようになりました。
- ・保育を見てもらえたことで、小学校の半日入学などにあそびを取り入れてもらい、子ども達の不安が少なくなった。
- ・スタート期の一年生の教室の環境を幼稚園教諭と一緒に考えたことで、今までにない安心できる空間ができたようです。その結果、今年度は保健室に来る子どもや、行き渋りの子どもの姿があまり見られないとのことでした。
- ・横の繋がりができ、幼稚園さんとも繋がりました。小学校が身近な存在になりました。
- ・参観、保育を見学した後の語り合いをすることで、同じものを見ていても、視点の違いに気づくことができます。違うということを知ることで、教育・保育の意味が分かります。また、伝えることで、幼児教育・保育を知ってもらうこともできます。お互いに理解し合い、近づけるように感じています。
- ・年長児が、小学校1年生クラスへ行き、1年生が年長児にランドセルや学校の中のことを説明する交流会。小学生になるのを楽しみにしたり、不安が和らいだりした様子が見られました。
- ・特に、取組後の話合いや園内研修への小学校教職員の参加は、互いの教育についての理解が深まります。また、幼保小ともに、様々な特性を持つ子どもたちへの援助の充実にもつながっています。
- ・年長の秋の懇談会で、就学に向けての話を学校の先生にもらっています。保護者からも好評です。
- ・育成学級ではどのような学習や活動をしているかということを、学校の先生に1時間ほど講義してもらいました。保護者へ説明するうえでも大変学びになりました。
- ・保育見学により、遊びからの学びについて、理解してもらいやすいと感じています。
- ・小学校1年生（修了児）と次に小学校へ行く年長児について、エピソードを書き、お互いに子どもへの関わりについての思いを語り合う（エピソード検討会）ことで、子どもへの視点について共通理解できています。
- ・全市で架け橋を取り組むことは画期的で、他学区の取組なども知り時間をかけながら各学区に合った取組を持続可能な形で継続していくべきと思っています。特に大人同士、就学前施設同士や小学校と就学前施設の先生が互いの教育を知り合い、互いを尊重しながら理解を深めていくことが子どもの豊かでスムーズな成長につながると思って日々努めているつもりです。

いただきました様々な御意見は、学校指導課とも共有し、今後の取組に生かしていきたいと思います。



子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。

[京都はぐくみ憲章]より



この印刷物が
不要になれば
「雑がみ」として
古紙回収等へ！

発行日 令和8年1月22日
発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町 601-1
Tel : (075)254-5001 Fax : (075)212-9909
URL : <https://www.kodomomirai.city.kyoto.lg.jp/>